

小学2年2組 生活科学学習指導案

指導者 大坂 慎也

1. 単元名 としょかんって、どんなところ？ としょかんに、レッツ・ゴー！

2. 単元のねらい

公共施設である地域の図書館へ行き施設を利用する活動を通して、公共施設やそこにある公共物はみんなで使うものであることや、図書館を支えている人がいることが分かり、図書館に愛着をもち、大切に使ったり正しく利用したりすることができる。

3. 授業の構想

子どもたちの身の回りには、公園や公民館、美術館、駅などたくさんの公共施設が存在している。そこには、誰もが気持ちよく使うための決まりがあり、そこで働く人々がいる。身の回りにはみんなでする施設（公共施設）があること、そしてそれを支えている人がいることが分かり、愛着をもち、大切に使ったり正しく利用したりすることができるようにしたい。

附属小学校の周辺には、いくつかの公立の図書館がある。その中のひとつである松江市立図書館は、松江市の中心部に位置し、年間を通してたくさんの来館者がある公共施設である。子ども向けスペースや蔵書が充実しており、本の読み聞かせの実施、移動図書館（ブックモバイル）による貸し出しも行うなど、本に親しむための普及啓発活動にも力を入れている。館内を見渡しても、ソファやいす、テーブルを置いての読書スペースやおすすめの本コーナーの配置、わかりやすい本の分類・配置、館内利用の約束の掲示等、子どもがたくさんの気づきをもちやすい環境にあると考える。

そのような松江市立図書館に実際に複数回行き、読みたい本を読んだり、施設内を見学したり、そこで働く人にインタビューして思いや願いを聞いたり読み聞かせをしてもらったりといった施設の人々に関わる体験を行う。そうすることで子どもたちが、図書館という公共施設には誰もが気持ちよく使うための決まりがあること、そこで働く人は誰もが気持ちよく使いやすいように様々な工夫がされていること、またそのような図書館に情熱をもって働いている人がいることに気づけるようにしたい。そして、子どもたちが気づいたことや調べたことを伝え合う中で気づきを比較したり関連づけたりし、追求意欲を高め、1年生や親に自分たちが調べたことをパンフレットなどで紹介する活動を通して、「図書館がどんどん好きになってきたよ」「また、図書館に行きたいな」などと図書館に親しみや愛着をもち、大切に利用しようとするように単元を構成していく。

そこで、本単元を展開するにあたり、次の点を大切にしていく。

問いが生まれる対象との出会わせ方を工夫する

単元の導入として、子どもたちが「図書館って、どんなところだろう」「図書館に行ってみよう」という思いや願いをもつことが、その後の追求につながると考える。そのために導入として、松江市立図書館の移動図書館（ブックモバイル）を利用する。「読書の秋」にちなみ、学校にやってきた移動図書館の本を手にとって読むことで、「移動図書館には、おもしろい本がたくさんあるね」「この移動図書館は、どこから来たのだろうか」といった思いや疑問をもつことができるようにする。そして、「松江市立図書館って、どんなところなんだろう」「松江市立図書館に行ってみよう、本を読んだり、見たり聞いたりしてみよう」という思いや願いを強くしたい。

気づきが広がり深まるために、学び合う場の設定の仕方を工夫する

子どもは、「こんなことやってみたい」「こうしたらどうなるかな」という思いや願いをもちながら追求していく。その追求が続く中で、「これを友だちに教えたい」「どうやるのか教えてほしい」「みんなは何を調べてきているのかな」という願いをもつ子どもが出てくる。その際、学び合いの場を学級全体で一斉にもつだけではなく、子ども一人一人のその時々思いや願いをとらえ、子どもの必要感に応じて小集団での学び合いの場を設定することも考えられる。上述したような必要感をもった子ども同士による学び合いを通して、一人の気づきがまわりの子どもに広がったり気づきがさらに深まったりしていくと考える。

4. 展開計画（全15時間＋課外 本時9／15＋課外）

- 移動図書館（ブックモービル）の本を読む（2校時）
- 市立図書館に行き、本を読む（3校時）
- 学校図書館の様子やそこで働く人について調べる（1校時）
- 学校図書館について調べたことを伝え合う（1校時）
- 市立図書館に行く計画を立てる（1校時）
- 市立図書館を利用しながら、図書館の様子や図書館で働く人の思いや願いを調べる（3校時）

○市立図書館を利用することで気づいたことや調べたことを伝え合う（2校時）

○市立図書館を紹介するためのパンフレットなどを作る（2校時・本時）

○作ったパンフレットなどで、1年生や親に市立図書館のことを紹介する（課外）

5. 本時の学習

(1) ねらい

図書館を利用したり図書館で働く人に話を聞いたりして気づいたことについて、1年生や親に紹介するためのパンフレットなどを工夫して作ることができる。

(2) 展開

主な学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
<p>1. 前時を振り返る。 図書館のことがいろいろ分かりました。パンフレットにかきたいことが、たくさん見つかりました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">1年生やおうちの人が○○と思うような図書館パンフレットをつくろう</div> <p>2. 1年生や親に紹介するためのパンフレットなどを作る。 ・どうやってかいたら、図書館のことが分かりやすいかな。</p> <p>3. パンフレットなどをもっとよりよいものにするための作り方を伝え合いながら、作り方を見直す。 (パンフレットなどを作る活動の中で) ・ぼくが考える図書館のおすすめポイントをかいたら、みんなに見てもらえるよ</p> <p>4. 本時を振り返る。 ・友だちと相談したりアドバイスを伝え合ったりすることで、どんなふうパンフレットをかいたらよいか分かりました。早く完成させたいです。</p>	<p>・調べてきたことを「パンフレットなどに表したい」という願いに高まるように、これまでの活動を振り返る。</p> <p>・これまでのワークシートなどを見ながら、図書館で調べてきたことや利用して分かったことを想起できるようにする。</p> <p>・友だちの考えや作り方を聞くことで、パンフレット作りにはいろいろな方法があることに気づくことができるようにする。</p> <p>・「ぼくは、こうだよ」「○○さんのやり方もいいかも」「もっとこうすればいいな」という考えを伝え合うことで、活動への見通しをもち、追求意欲を高めていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価の観点（活動や体験についての思考・表現）】 1年生や親にとってよく分かり、喜んでもらえるようなパンフレットなどの作り方について、自分なりに考えたり友だちの考えも聞いたりしながら、工夫して作っている。 (評価方法 活動、パンフレットなど、ふりかえりカード)</p> </div>

